

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	66.9%	自校A B層の割合	64.5%
令和5年度の成果	自校A B層の割合	43.5%	自校A B層の割合	46.2%

目標達成に向けた取組

3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況を把握し、基礎的基本的な習得を図るために単元テストや小テストを実施する。 思考力、判断力、表現力等をバランスよく育成するために、対話的な学びや発表活動や個別学習を単元指導時間の20%設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期テストに向けて1週間のstudy-weekを実施する。 漢字、計算、スペリングコンテストをそれぞれ年2回実施する。 数学の単元別検定を年3回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学、英語における少人数指導や放課後補習教室を有効に活用させ、学習の理解度を高めさせる。 課題や提出物の期限の徹底するとともに、提出の支援や課題提示方法の工夫も行う。
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	<ul style="list-style-type: none"> 週1回校内委員会を開催し、指導方法について情報交換を行う。 個に応じた意図的・組織的な指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 一斉指導に加えて、個別指導や視覚教材、ICTの活用を推進し、理解を促す。 定期考査前に質問教室や補習を実施し、個々の学力や理解度に応じた個別指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒だけでなく三者面談等を通じて家庭学習定着の呼びかけ及び、協力依頼を行う。 メディアコントロールチャレンジ週間を設定し、実態を把握したうえで、学習時間の増加を促す。
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上を図るための調査各教科の「授業の内容はどのくらい分かりますか。」肯定的な回答90%以上を目標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上を図るための調査の「授業で問題や活動に取り組んで『できた』『分かった』を感じることが多いですか。」肯定的な回答80%以上を目標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上を図るための調査の「学校での授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強していますか。」1時間以上の回答80%以上を目標とする。